

ハンドボール

特集

第22回 男子世界選手権

第62回 全日本総合選手権大会(女子の部)

JOCジュニアオリンピックカップ2010

3・4 5

MAR.APR.2011・No.517



[表紙写真：第22回男子世界選手権・末松誠選手：写真提供・服部由紀氏]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 検定球

縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 検定球

縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

全てのベクトルを「強化」に



(財)日本ハンドボール協会会長 渡邊 佳英

この度、会長に再任されました。引続き日本ハンドボール協会にご支援賜りますようよろしくお願いいたします。また、このたびの東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

日本ハンドボール協会は、今年度も引続き「強化」に全てのベクトルを合わせ、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつけるべく総力を結集し、10月に男子は韓国、女子は中国で開催されますロンドンオリンピックアジア予選において、出場権を得るよう取り組んでいきます。また3月にフランスハンドボール連盟とパートナーシップ契約を締結しましたが、今後フランスとの交流も深めていきます。さらにハンドボール競技の注目度アップ、競技人口アップ等に向け以下の内容について役員一丸となって活動を続けていきます。

- ◆強化は、ロンドンオリンピック出場権獲得に向け、代表チームを更にブラッシュアップし全力で戦い抜きます。また、NTSの徹底と「JHA ジュニアアカデミー」の連結により、ジュニアからの強化と6年後、11年後に備えた指導方針の一本化を図ります。さらに強化システムの見直しを柱に短期・中期の具体策の明確化と、指導者・スタッフの育成・拡大についても取り組みます。
 - ◆審判は、国際レフェリーの早期育成は急務であり、国際基準のヤングレフェリー育成を最重点に取り組みます。
 - ◆指導普及については、「普及活動事業」と「指導者育成事業」を2本柱と捉え、「小学生・中学生大会の拡大」、「NTSとの連携・周知徹底」、「マスターズ大会の組織充実」、「車椅子大会の充実」等に取り組み、競技人口アップにつなげます。
 - ◆国際は、東アジアハンドボール連盟との結束を更に強固にし、「アジア地域の発展」をベースに行動し、IHF、AHFに従来の提案はもちろん、新しい提案を投げかけます。また、IHF、AHFとの関係を密にする活動も行います。
 - ◆マーケティング・広報は、バリューアップ活動によるハンドボールの注目度アップ、マスコミへのアプローチ、新しいスポンサーの獲得・拡大等に取り組みます。
 - ◆日本リーグは、「プロの興行集団」を目指し、日本のトップゲームをたくさんのファンに披露すると同時に、昨今の社会情勢の変化に対応するため「新ディビジョンの拡大・育成」に今年も取り組みます。
 - ◆総務は、公益財団法人化に向けて役員の育成・充実と事務の整備に取り組みます。
 - ◆財務は、政治、経済、社会的価値観等の前代未聞の激変を踏まえ、中期展望に基づいた予算の執行を考え実行します。
 - ◆がんばれ20万人会は、「ハンドボールのバリューアップ」、「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」等の本来の目的を踏まえ、諸策を見直し20万人を目指します。
- 以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

第22回男子世界選手権

22nd Men's Handball World Championship



【最終順位】

- 優勝：フランス
- 2位：デンマーク
- 3位：スペイン
- 4位：スウェーデン
- 5位：クロアチア
- 6位：アイスランド
- 7位：ハンガリー
- 8位：ポーランド
- 9位：ノルウェー
- 10位：セルビア
- 11位：ドイツ
- 12位：アルゼンチン
- 13位：韓国
- 14位：エジプト
- 15位：アルジェリア
- 16位：日本
- 17位：スロバキア
- 18位：オーストリア
- 19位：ルーマニア
- 20位：チュニジア
- 21位：ブラジル
- 22位：チリ
- 23位：バーレーン
- 24位：オーストラリア

「第22回男子世界選手権」は、全て写真提供：服部由紀氏

報告

日本選手団団長 川上 憲太

日本が3大会ぶり（2005年出場以来）通算12度目の出場となった第22回男子世界選手権大会が、1月13日から30日まで、ハンドボール王国・スウェーデンの8都市で世界24か国が参加して行なわれました。

日本は1次リーグ4組の内のBグループに入り、アイスランド、ノルウェー、オーストリア、ハンガリーといずれもヨーロッパ選手権を勝ち抜いた強豪（WCの常連ロシアは予選敗退で不出場）とオリンピック開催が決定したブラジルとの戦いとなりました。

予選会場はスウェーデン北部の都市・ノルシェーピング、リンシェーピングで行なわれ、試合会場はさすがハンドボール王国で、連日たくさんの目の肥えたファンで埋まりました（4000人収容のハンドボール・アイスホッケー会場）。

日本チーム酒巻ジャパンは、1月4日に日本を出発、デンマークで事前合宿を行ない、十分なフィジカル、ディフェンスシステム、オフェンスシステムの確認を行ない、死のグループと言われたBグループで「予選リーグ突破」を第一目標に、短期間の調整ながら非常に充実したチームコンディションで戦いに入れました。

試合の結果、内容については、強化部門の報告を参照していただきたいのですが、日本チームは初戦のノルウェー戦で非常に素晴らしい内容で挑み、前半のシュートチャンスをも

のにできれば勝利に結びついた誠にもったいない戦いぶりでした。もう少しで勝利が手に入ったと感じました。ヨーロッパのパワー・スピード・テクニックに負けない実力がついてきたと感じた試合でした。

第2戦オーストリア戦は、その手ごたえそのままに堂々の勝利でした。日本にとって33年ぶりにヨーロッパ勢を打ち破る歴史的勝利となりました。「高く・重たくて・固くて・早く・うまい」どれをとっても一段上のヨーロッパ勢の一角を見事に打ち破りました。

「ハンドボールは体格ではない」「アジアからきた小さなスーパースター」の見出しが新聞で大きく報道されました。

日本のハンドボールのスピード・ボール廻し・プレスディフェンスに対し注目が集まりました。これは決して宮崎選手個人のことだけでなく日本チームに対する驚異の表れであったと思います。関係者、ファンは「サプライズ」を連呼していましたが、とんでもありません。実力で勝利しました。

第3戦のアイスランドは、この日本の戦いぶりに徹底した対策を練り、ベテランをはずし、日本のスピードハンドボールに対し、アグレッシブな固いディフェンスで必死の守りで対応してきました。「高く・重くて・固い」ディフェンスの前に完敗でした。

第4戦ハンガリー戦は、ここで勝利すれば「予選リーグ突

破」とチーム全員が自信を持って勝ちに行きました。結果は誠に残念だった訳ですが、ここも決して実力差を感じる内容ではありませんでした。

予選リーグ突破をねらっていた酒巻監督以下選手たちの目に悔し涙がにじんでいました。ここまで最強のヨーロッパ勢4試合の中で「もったいない」「残念だ」「もう少しだ」選手たちは次のステップに進めませんでした。確実に自信を持った「悔し涙」だと感じました。

予選リーグ順位のかかったブラジル戦に勢いそのままに勝利を掴むことができました。リオでのオリンピック開催が決まり、名ヘッドコーチに率いられたブラジルも着実に実力を上げています。2008年に来日した時（日本の1勝2敗）とはメンバーも実力もガラッと変わっていました。

ここで予選リーグ2勝3敗でオーストリアを押さえて4位となり、プレジデントカップ（順位決定リーグ）13位～16位決定リーグに臨みました。しかし予選リーグBグループの中で負傷者が出たこともあり、スピードとチームワークで全員で戦いに挑みましたが、結果が出なかったことにつきまして、皆様にお詫び申し上げます。

その後、帰国のスケジュールの中で決勝戦の行なわれるマルメの本会場で、本選ラウンドファイナルの地元スウェーデン対デンマーク、ポーランド対クロアチアの試合を全員で観戦しました。12000人の収容のマルメアリーナは、14000人の観客で埋まり、大変な盛り上がりでした。「日本もこの舞台で闘うんだ」と全員が身の引き締まる思いでありました。

我々の当面の目的はアジアNo.1になりオリンピックに出場することです。まずはアジアで勝つことです。私はアジア大会、そして今回の世界選手権を通じて、男子の強化につきましては、まずは更にフィジカルをアップさせ、1対1のディフェンス力、1対1のオフェンス力の原点をつくること。そして、何回も言いますが、「高く、重たく、スピード」のあるアジア勢に勝ち抜くには、国内合宿では限度があります。出来る限り海外で合宿を行ない、ピークのコンディションでオリンピック予選に挑むこと、この2点だと思います。

皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

久々の世界選手権出場のこともあり、蒲生国際担当常務理事も選手団に同行し、ハッサン・ムスタファ会長、前ランス会長、ロカ・マス第1副会長、ティアブ副会長、マンスール副会長（アフリカ）、オリベイラ副会長（ブラジル）、マズークCCM委員長、ルンドPRC委員、グリーンWC組織委員他、スウェーデン組織委員会、各国選手団の役員等たくさんの皆様と親しく交流ができました。これも今後国際活動に生きてくるものと考えます。

団長として専務理事として臨んだ世界の舞台で、日本がやらねばならない様々な課題が明確になったことが収穫の一つと考えています。改めてひとつひとつ皆様と共に解決していくことを心に誓ったところであります。

今回の世界選手権出場にあたり、たくさんの皆様のご支援、ご理解、ご協力を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

第22回世界選手権スウェーデン大会 男子日本代表チーム監督 酒巻 清治

新年1月2日（日）昼過ぎに味の素ナショナルトレーニングセンターに19名の選手たちが集合した。世界選手権スウェーデン大会に出場するためである。前回出場がチュニジア大会であることから3大会ぶりの世界への挑戦である。昨年2月ペイルートで開催されたアジア選手権にて出場権を獲得して以来、世界の強豪との対戦を心待ちにしてきた。前回出場経験者が豊田・宮崎の2名のみであり、初出場組が17名とチームの大半を占める。いかに世界の強豪と戦うか不安を抱えながらのスタートを覚悟していたが、19名の選手たちの表情からは正月気分などは微塵も感じられず既に戦闘モード突入状態であった。

1月4日（火）味の素トレーニングセンターでの調整を終え、ANTC職員、田中・市来両専任コーチ、新体操・吉岡コーチらの激励を受け、最終調整地であるデンマーク・ホーセンスへ移動した。

デンマークでのテストマッチは4試合、いずれもエリートリーグの強豪ぞろいであったが、2勝2敗と上位2チームには勝利を収め、中位2チームには敗戦という結果に終わった。

課題としてあげられる「集中力の欠如」によるテクニカル

ミスの発生がいかにゲームを左右するか選手たちの自覚を促す意味では、満更でもない結果であった。以前筑波大学で実施した野外活動の際、担当教授から言われた「このグループは難敵の前には一致団結して実力以上の力を発揮するが、ハードルの低い課題に取り組む時には集中力を欠くケースがある。」という話を思い出したものである。そうであれば世界選手権では大丈夫ではないか、眼前に現れる相手はいわゆる「難敵」だらけである。

宮崎の怪我を除いて、これといった故障者や体調不良者もなく、1月11日予選リーグ開催地であるリンシェーピングに到着した。大会が準備した選手づき「マッツ・スベンソン」は私がスウェーデン滞在中お世話になったクラブの部長であり、住まいはマルメにあり家族全員が世界選手権のサポートをしている。

初戦のノルウェー戦から振り返ってみるが、いかに大会に馴染むかがゲームへの入りか一つのカギであったが、さすがにノルウェーも手堅くなかなかペースを譲ってくれない。後半に入り硬さが取れてきたが、前半の失点が最後まで尾を引いてしまった。しかし同時に「闘える」という多少の自信が芽



生えたのか翌日のオーストリア戦はスタートから終始ゲームをコントロール出来た。33年ぶりに欧州勢からの勝利ということで「サプライズ」扱いをメディアからされたが、現場はそれほどの驚きでもなかった。なぜならば日本選手の機動力を苦手とするタイプであると分析していたからである。3戦目は休養日明けのアイスランド戦、この「休養日」が日本にとって最大の敵となってしまった。アイスランドに十分な準備時間を与えることになってしまったからである。日本対策としてスピードのある選手を配置、世界選手権の2試合以外に3試合準備した試合内容を分析した結果の対応である。優勝を目指す国にこれほど準備をさせたという点では「評価」出来ても、世界のトップ特に集中力の違いをまざまざと見せつけられた。結果は完膚なきまでに叩きのめされた。第4戦はメインラウンド進出をかけたハンガリー戦である。パワフルなテクニシャンを揃えた布陣は日本にとって脅威以外のなにものでもない。前半は全く勝負をさせてもらえない。

後半10分過ぎ日本のDFシステムに変化を持たせたあたりから、ハンガリーの攻撃陣に隙が出来た。このラスト20

分は今大会のベストパフォーマンスであり、本来日本が目指すべきスタイルをほんの少し確立した瞬間であった。敗れはしたものの大会6位のハンガリーの喉元まで迫ったパフォーマンスが予選ラウンド最終戦のブラジル戦に生きた。

ブラジルについては情報不足の感があるかもしれないが、欧州では世界で最もハンドボールレベルを成長させていると評価されている。ハンガリー戦の敗戦により初のメインラウンド進出の野望は打ち砕かれたが、ブラジル戦は是が非でも勝利を収めプレジデントカップに臨みたい。パフォーマンスの内容自体はオーストリア戦やハンガリー戦ほど濃くなく、多少のミスも発生したが、勝利にける執念はチーム全体みなぎっていた。ハンガリー戦同様後半の重要局面でのDFシステムチェンジが奏功し、何とか勝利を収めグループ4位でプレジデントカップに進んだ。このまますんなり順位を上げて帰国したかったがそれほど甘くはなかった。ロンドン予選突破に向けて現時点で日本チームが抱えている課題が浮き彫りになった2試合であった。エジプト・アルジェリア共に大型GKを起用。予選ラウンドで2mを超える大型GKに対する7mを含めたフリースペースでのシュート確率が低いことを見透かされての起用であった。重要局面でゴールゲット出来ず焦りからミスを繰り返し自滅に近い形で連敗し、最終順位を上げられず16位という結果に終わった。

大会を通じて十分通用する部分と現時点での課題が浮き彫りになった。これはある程度予想していたことであったが、世界の強豪国相手により明確にさせられたことが今後の強化に十分生かすことが出来る。

私は世界選手権に向け選手たちにあるお願いをした。大会期間中での振る舞いについてである。今大会期間中の日本代表選手の「姿勢」に感謝したい。世界選手権での経験値の多い少ないは関係なく「日本人の代表」として世界と闘ってくれた。IHF並びにSHFからの称賛がこれを物語っている。

最後に、今大会参加に向け年末年始不眠不休でサポートに回って頂いた日本協会事務局、国旗を片手に日本から駆け付けてくれた恩師並びにANTC市来専任コーチ・JOC伊藤ダイレクター、シーズン期間中にも関わらず惜しみなく代表選手並びにスタッフを派遣下さった所属チーム、本当に有難うございました。この場をお借りし御礼申し上げます。皆さんに応援して頂いた選手たちは全力で闘いました。今大会得た自信をより大きく育み、ロンドン予選は必ず突破する。

世界選手権を終えて

男子日本代表キャプテン 末松 誠

第22回世界選手権が1月13日から30日の期間で開催されました。

私達、日本代表はアジア選手権を3位で通過し、今大会に挑みました。今大会は世界の強豪国を相手にメダルを獲得する事を団長以下、スタッフ、選手全員の目標として掲げました。

予選リーグ初戦は、ヨーロッパでも強豪のノルウェー。参加した日本代表選手で世界選手権という大きな舞台を経験したのはごく僅かで、ほとんどの選手が初参加の中、試合が進みました。スウェーデン開催という事で、会場は非常に多くのハンドボールファンに埋めつくされ、大観衆の声援の中、スローオフで試合が始まりました。中盤は逆転のチャンスこ

そ得たものの相手の高い壁に阻まれ得点できず、終始リードされたまま試合終了となりました。

初戦から世界の壁の厚さに圧倒された日本でしたが、第2戦目のオーストリア戦では国民の期待に答えるようにと全選手が奮闘しました。立ち上がりから先制は許すものの相手のミスからの速攻が決まり、攻撃では大黒柱である宮崎選手の気迫溢れるシュートで勢いにのることができ、前半を18対11と7点リードで折り返しました。後半、ヨーロッパ強豪のオーストリアは、簡単には勝利を譲る相手ではなく、力強いプレーで次々と得点し、追い上げられそうになる場面もありましたが、日本は得意とするスピードハンドボールで応戦し、最後は33対30で勝利することができました。次の対戦相手は前回の北京オリンピックで銀メダルを獲得したアイスランド。前半から大量リードを許し、全く日本のリズムに乗れないまま試合終了となりました。

ハンガリー戦では中盤で良い流れを引き寄せるものの相手の高い技術に苦戦し、いずれも勝利を掴むことができませんでした。これで予選リーグ敗退が決まった日本ですが、自分達のスピードハンドボールを世界で通用させたいという全員の想いを込め、リーグ最終戦のブラジルでは、気持ちをコー

トで表現し、観戦している観客に日本のスピードを披露し勝利することができました。

予選リーグを敗退し、順位決定戦へ進んだ私達は、少しでも良い結果を残そうと試合に挑みましたが、エジプト・アルジェリアにいずれも力及ばず、今大会を16位という結果で終わってしまいました。

私達、日本代表は目標には及ばなかったものの、今回の世界選手権を通じて、様々な経験をしました。世界の技術や力強さ、そして世界で活躍する選手のワンプレーに拘る強い姿勢。日本のハンドボールを世界で通用させるためには、今回、目で見て体で覚えた経験を忘れず次に生かさなければなりません。そして、目標であるロンドンオリンピック出場に向けて日々努力していきます。更には、現日本代表が日本ハンドボール界の先頭に立ち、これからトップレベルを目指す若い世代に、この経験を伝えていかなければならない責任があると感じています。

次のオリンピック予選、また世界選手権では、今よりさらにレベルアップした日本代表に生まれ変わり、日ごろから応援して下さる全ての人に、素晴らしい結果を報告出来るように日々努力していきます。

戦 評

ノルウェー 35 (18 - 13, 17 - 16) 29 日本

立ち上がり、大観衆の声援と緊張などから0対3とリードを許す。15分までに武田の速攻、東長濱秀希・門山・宮崎・富田らの得点で7対9と2点差まで詰め寄る。中盤はGK甲斐の連続セーブで逆転のチャンスを得るもののシュートを相手GKにセーブされ、点差を詰めることができない。前半終了間際、ノルウェーに連続退場者が出る間に得点するが13対18と5点ビハインドで折り返す。

後半もGK甲斐のセーブから徐々に点差を詰め、8分過ぎに岸川の得点で20対22と2点差とする。このよい流れを継続したい日本だったが、フィニッシュが決まらず16分で24対31。その後、門山の連続得点や東長濱秀作・野村らの得点、さらにGK松村の体を張ったセービングで勝利への執念を見せるが時間が足りず29対35で試合終了。

【得点】7点：門山、6点：豊田、4点：富田、3点：宮崎、2点：野村、東長濱秀希、東長濱秀作、1点：武田、岸川、森

日本 33 (18 - 11, 15 - 19) 30 オーストリア

立ち上がり、オーストリアに先制されるが、岸川・武田の速攻と宮崎のミドルが決まり3対1。さらに村上・豊田らの得点で7対3とリードする。10分過ぎ、オーストリアはタイムアウトを請求。立て直しを図ろうと宮崎にマンツーマンDFをしかけるが、広くなったDFの間を門山が崩し、9対5。ここから、GK松村の4連続セーブでさらに点差を広げ

たいところだがシュートが決まらず失点し、9対9の同点。しかし、これまでのアグレッシブなDFが相手の体力を消耗し、OFのミスを誘うと8分間オーストリアの得点を許さない。その間に末松の3連続速攻を含む6連続得点で15対9。前半終了間際にも武田・豊田のパスカットなどから宮崎・門山らが得点し18対11で前半を折り返す。

後半、オーストリアはDFを6-0に戻し対応してくるが、宮崎-富田のコンビプレーやGK篠内の7mTセーブなどで会場を沸かす。しかし、オーストリアも諦めることなく徐々に点差を縮め11分で23対19。この状況を凌ぎたい日本は豊田-宮崎のスカイプレーや東長濱秀希の7mTなどで得点し、残り10分で30対25。その後もGK松村の好セーブなどDFが踏ん張りを見せるとOFでは東長濱秀作らの得点で残り5分、31対27。ラスト2分半、オーストリアはダブルマンツーマンDFで最後の反撃を仕掛けてくるが、門山・豊田が冷静にゴールを決め33対30でオーストリアに勝利した。

【得点】8点：宮崎、5点：末松、門山、4点：豊田、富田、2点：村上、武田、1点：岸川、東長濱秀希、東長濱秀作

アイスランド 36 (22 - 8, 14 - 14) 22 日本

立ち上がり、先制されるものの宮崎・豊田の得点で2対4。3分過ぎに相手のミスでチャンスを得るが、得点することができないと6分過ぎからはアイスランドのハードなDFに対しOFミスが続き、12分までに2対12とリードされてしまう。その後、東長濱秀作・富田・村上らが得点するが点差が

縮まらず、前半を8対22で折り返す。

後半、末松・東長濱秀希らの得点で11対23。さらにGK松村が好セーブを見せ、野村・門山らの得点で16対26。機動力を使い相手の体力を消耗させたいところだが、ミスから逆速攻で失点し20分で19対30。残り5分、野村・東長濱秀希・門山の3連続得点するが、地力に勝るアイスランドに22対36で敗戦。

【得点】5点：門山、4点：野村、3点：富田、東長濱秀作、2点：宮崎、東長濱秀希、1点：豊田、末松、村上

ハンガリー 28 (13 - 8、15 - 16) 24 日本

試合開始直後、宮崎-豊田のスカイプレーを見せるが、惜しくもラインクロスで得点にならず。村上のサイドシュートで先制すると、宮崎、豊田らの得点で7分で4対4と互角の展開。しかし、ミスからの連続失点で20分までに8連続失点で4対12とリードされてしまう。その後、東長濱秀作・秀希が得点。DFも足が動きだし、GK松村の連続セーブもあり前半を8対13の5点差で折り返す。

後半、昨日の試合同様に反撃を仕掛けたい日本だが、5連続失点があり9対19と10点差にされてしまう。しかし、DFシステムを6-0に変更するとこれが相手のミスを誘い、宮崎・末松・野村の3連続得点で14対21。GK松村がシュートを顔面に受け、負傷退場するものの交代で入った甲斐が好セーブを見せ、失点を抑える。その間、富田・東長濱秀作らが得点し、徐々に点差をつめ19対25。最後までDFが踏ん張り、野村・末松・宮崎の得点で3点差まで追いつける。さらに岸川らの速攻が決まるが24対28で試合終了。

【得点】5点：宮崎、4点：末松、3点：野村、東長濱秀作、2点：豊田、村上、東長濱秀希、1点：岸川、富田、門山

日本 33 (13 - 12、20 - 20) 32 ブラジル

立ち上がり、プレーにやや硬さが見られたが、宮崎・豊田・末松・富田らの得点で7分まで5対5の同点。中盤以降もお互いに1点を争う展開になり、17分で10対10の同点。その後、日本が退場者を出す間に失点し、10対11とリードされる。しかし、今度はブラジルに退場者が出ると野村・末松の連続得点で13対11と逆転。前半終了間際に7mTで失点するが、13対12で折り返す。

後半もキャプテン末松を中心に、東長濱秀希・野村らが得点を重ね10分まで21対21の同点。DFでは武田を中心にアグレッシブなDFを見せ、18分、末松の速攻で26対25と1点リード。その後も攻撃の手を緩めることなく、岸川・東長濱秀作らの得点で30対28。残り5分を切り、30対29とまた1点差にされる。さらに日本が一人少ないときにパッシブプレーの予告。ここでエース宮崎がフリースローから技ありのステップシュートを決め会場を盛り上げる。最後は岸川の豪快なミドルが決まり、33対32で勝利。メイン

ラウンドへ進出することはできなかったが、予選リーグ4位となり、13～16位決定戦を戦う。

【得点】12点：末松、6点：富田、3点：豊田、宮崎、2点：岸川、野村、東長濱秀希、東長濱秀作、1点：門山

▼13 - 16位決定戦1回戦

エジプト 34 (17 - 14、17 - 14) 28 日本

立ち上がり、東長濱秀作から野村へのスカイプレーが決まり先制すると、東長濱秀作・海道らの得点で4対2。5分過ぎから富田の速攻、野村・猪妻の得点、GK松村の好セーブがあり9対6とリードする。しかし12分、ミスから連続失点で9対8とされると、エジプトに退場者がでてパワープレーのチャンスにも得点できない。さらにミスから失点が続き、22分で9対13と逆転されてしまう。その後、岸川・末松が得点し、前半を14対17で折り返す。

後半、GK甲斐のセーブから岸川が持ち込み、15対17。早い時間に追いつきたい日本だが、連続退場で得点が伸びない。中盤、甲斐の好セーブから猪妻・東長濱秀希・豊田の3連続得点で22対25と3点差まで詰め寄る。その後、末松・門山・猪妻らの得点するが追いつくことができず28対34で試合終了。

【得点】7点：末松、4点：猪妻、東長濱秀希、3点：岸川、野村、2点：豊田、富田、1点：海道、門山、東長濱秀作

▼15 - 16位決定戦

アルジェリア 29 (13 - 13、16 - 11) 24 日本

立ち上がり、野村のカットインで先制するが、ミスから失点し1対3。すぐに海道の個人技で3対3の同点に追いつく。しかし、12分過ぎから連続失点で5対9とリードされる。16分、アルジェリアに連続で退場者が出る間に、末松・富田の得点、さらにGK篠内の連続セーブから武田・海道の連続速攻で9対10と1点差に。その後、岸川・森らの得点が決まり前半を13対13の同点で折り返す。

後半、日本はDFシステムを6-0に変更するとGK篠内がDFとの連携からアルジェリアのロングシュートを好セーブ。この間に豊田・東長濱秀作らが得点し7分まで16対16の同点。勝ち越したい日本だが、ここでミスと退場者を出してしまい5連続失点。その後、猪妻・東長濱秀希の連続得点で18対21。交代して入ったGK甲斐の連続セーブから門山・森らの得点で22分に23対24の1点差まで詰め寄る。このよい流れを継続したいところだったが、シュートミスなどから流れに乗れず22対26と点差を広げられてしまう。最後まであきらめずに末松・海道が得点するが、24対29で試合終了。

【得点】6点：海道、3点：森、門山、2点：豊田、末松、東長濱秀作、1点：武田、岸川、富田、野村、猪妻、東長濱秀希



「第62回全日本総合ハンドボール選手権大会」は、全て写真提供：スポーツイベント社

平成22年度 第62回 全日本総合 ハンドボール 選手権大会

女子
の部

ソニーセミコンダクタ九州が初優勝！

第62回全日本総合ハンドボール選手権大会(女子の部)を終えて

広島県ハンドボール協会理事長 山本 一

第62回全日本総合ハンドボール選手権大会女子の部は、平成23年1月19日から22日迄広島市東区スポーツセンターで開催された。

今回大会は、女子のアジア選手権が平成22年12月19日から25日までカザフスタンで開催されたため、男女同時開催でなく女子だけの大会であった。

参加チームは例年通り日本リーグ勢6チーム、ジャパンオープン上位2チーム、学生から4チームの計12チームの参加。日本リーグ勢は、3試合総当りのリーグ戦を2試合消化しての大会でプレーオフ進出を目指すチームにとっては気合の入る大会となった。夏のジャパンオープンを制した香川銀行は、7月の実業団選手権大会で日本リーグ勢の一角を破り4位となった実力を再び発揮し、実業団チームの存在を高めるための大会であり、同大会2位の徳山クラブは今年開催される山口国体に向けて弾みをつけたい大会であった。一方、インカレ上位4チームが参加した大学勢はインカレ初優勝の大教大、2位の大体大の関西勢に加え、関東の日体大、筑波大が出場。学生チームはシーズン終了後、最上級生を欠き入試の関係で練習もままならない状態での参加チームもあった

が、今大会では日本リーグ勢を破るなど健闘が光った。

ベスト4は予想通り、日本リーグ勢が占め準決勝2試合は白熱した試合が展開され場内を沸かせた。

決勝戦はいずれも準決勝で接戦を制したソニーセミコンダクタ九州とオムロンの戦いとなった。5連覇中のオムロンに対し、後半終了間際に2点差のビハインドを追いついたソニーが延長戦にもちこみ、延長前半に3点を挙げオムロンの猛追を振り切り初優勝をとげた。

大会を終えて思うことは、全日本総合という日本で最も権威のある大会としては、各チームがベストコンディションではなかったということは残念である。日本リーグ勢を除き他のチームは公式試合から相当な時間もたっていて、大会へのモチベーションを維持することは困難であったと思われる。

ただ、私にとっての救いの一言はある大学の先生がチームは一部の4年生が卒論など学業のため出場できず、また練習時間も少ない中での大会出場ですが、彼女達はコートに立てばハンドボール選手の本能で勝つために一生懸命プレーするんですよと言ってもらったことである。

どんなに抑えつけられても、
誰よりも
高く飛んだら

この25分×2は俺たちの
空間や——!!

スポーツドラマの名手が贈る、
ハンドボールに懸ける青春と影。
ピンゴコミックスピリッツの大人気シリーズ連載!

最新刊
第2集

明日のない空

日本ハンドボール協会推薦!!
定価/550円(税込)
発行/小学館

堀内夏子

インターネットでも買える! <http://comics.shogakukan.co.jp/> 書店でご希望の発行本が見つからない場合は、お手数ですが店頭でご注文ください。お問い合わせ先—お客センター—TEL.03-5281-3556